

生成AI時代の論文査読のあり方を、 あらためて考える（2026）

順天堂大学健康データサイエンス学部 山本憲

a.yamamoto.dm@juntendo.ac.jp

利益相反の開示

- 以下の利益相反について開示します。
- 私は、以下の企業の未公開株式全株を保有しています。
- 株式会社 あなたの A I

アウトライン

- 2025年1月時点における、生成AIの査読利用について
- 2025年～2026年における学術出版業界でのトピック
- 2026年1月時点における、生成AIの査読利用について、
2025年時点と比較して変化が見られた点について
- まとめ、今後の展望

自己紹介

- 山本 憲（やまもと あきら）
- 平成7年 京都大学医学部卒業
- 令和6年 順天堂大学健康データサイエンス学部
- 放射線科（画像診断専門医）、医学教育専門家
- 脳MRI研究、バーチャルリアリティ教材開発、生成AIの教育への利活用研究
- <https://sites.google.com/jsme-work.jp/ict-genai-symposium>
- <https://researchmap.jp/7000008766>



これまでの講演の内容

- 2025年1月 JAMJE（日本医学雑誌編集者会議）シンポジウム
 - https://jams.med.or.jp/jamje/library/13_jamje/menu.html
 - 研究者による出版社訴訟、査読ツール、出版社ガイドライン
- 2025年10月 日本癌治療学会総会
 - 査読制度の危機、査読者教育、AIとの協働モデル
- 2026年2月 J-STAGEセミナー（今回）
 - 2025年から2026年の変化について



<https://www.nature.com/articles/d41586-025-02457-2>

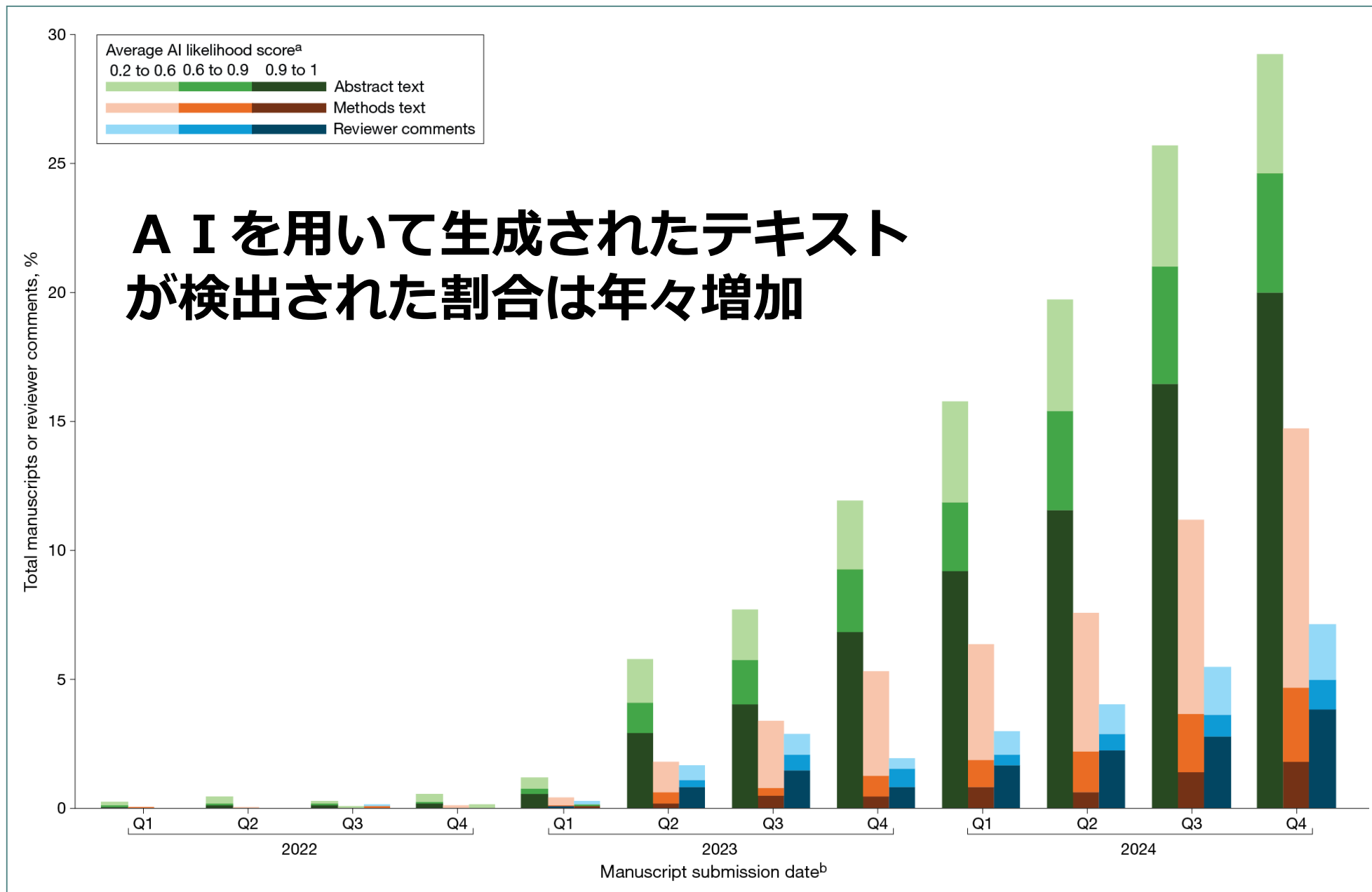
2026年までに変化したポイント

- **出版社や団体**からガイドラインが発出・改訂された。
 - STMガイドライン
 - 2025年9月改訂、第1回J-STAGEセミナー
 - 【Overview of STM Guidance on the Use of AI in Publishing Research Outputs】
 - Caroline Sutton氏（国際STM出版社協会）
 - COPEでのディスカッション
 - <https://publicationethics.org/topic-discussions/emerging-ai-dilemmas-scholarly-publishing>
 - <https://publicationethics.org/news-opinion/ai-dilemmas-scholarly-publishing-insights-beyond-forum>
 - <https://publicationethics.org/news-opinion/ethics-ai-peer-review-podcast>
- 論文執筆や査読での生成AI利用の実態調査が進んだ。
- 検出・禁止から利用・開示への移行が見られた。
- 生成AIによる論文執筆や査読活動が増加した。

調査方法の変遷

- 2025年1月当時はGoogle検索、PubMed等を用いていた。
- その後、ChatGPTのDeep Researchモードも試してみたが、ハルシネーションに悩まされた。
- その後、様々な文献調査ツール：Elicit、Consensus、Astaなどの登場後はもっぱら調査にはそれらツールを利用。医学知識にはOpen Evidenceを利用
 - <https://doi.org/10.1038/d41586-024-03676-9>
 - <https://doi.org/10.1038/d41586-023-01273-w>
- 2026年はGeminiのDeep Researchモードでハルシネーション生成が減少している印象がある。
- WEB上の情報ソース、メーリングリスト等
 - <https://scholarlykitchen.sspnet.org/>
 - <https://stm-assoc.org/>
 - <https://publicationethics.org/>
 - <https://www.nistep.go.jp/>
 - <https://peerreviewweek.net/>
 - Journalology（ブログ）
- 上記メーリングリストや記事内容からの孫引きアクセス情報等

Figure 25-1180. Increase in AI-Generated Text Detected in Submitted Manuscripts and Reviewer Comments Between 2022 and 2024



^aAverage AI likelihood score was calculated over sliding windows approximately 400 words in size.

^bManuscripts and reviewer comments were grouped by submission date based on the date the manuscript passed initial quality control checks.

2025 2026

WEBで流れていた広告：論文代筆 研究実施サポートツール

 Thesis AI
広告

論文や研究論文を書くの、大変じゃないですか？
もし1つのプロンプトだけで、実在する論文からの引用付き 80ページの下書き が作れたら？
それが ThesisAI。研究者のために作られたAIツールです。
1ドキュメント最大80ページ
PDF・Word・LaTeX・BibTeX対応
Zotero & Overleafと連携
最大100の参考文献、20以上の言語対応
1ドキュメント \$5〜
修士・博士課程の学生や、スピード重視の研究者に最適。
引用やフォーマットに時間をせず、アイデアに集中。あとはThesisAIにお任せ。
今すぐ試して、数分で最初のドラフトを手に入れよう。

たった1つのプロンプト
最大80ページ

ChatGPT	THESISAI
✖ 存在しない引用を作る	✔ 本物の引用 & 検証済み参考文献
✖ 自分のリサーチライブラリにはアクセスできない	✔ 自分の資料や研究をアップロード可能
✖ 論文全体は生成できない	✔ たった一つのプロンプトでOK
✖ 手動で事実確認とフォーマットが必要	✔ 最大80ページ LaTeX、Overleaf、Zotero、Mendeley対応

 SciSpace

Stuck on a Report, Literature Review or Research Question?

Handle everyday research tasks with reliable, citation-backed results

Give me any task to work on...

+

Auto

Connect Apps

↑

Search Papers

Literature Review

Draft

Diagrams

Presentation

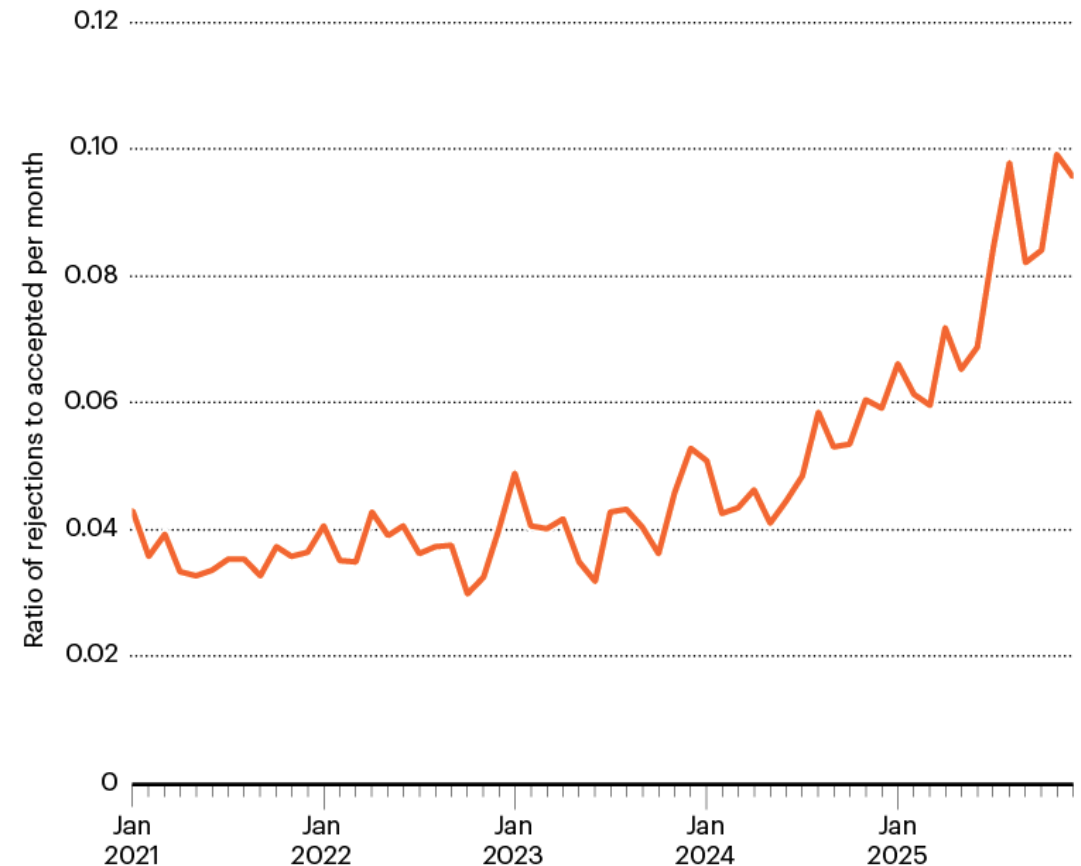
コンピュータサイエンス領域研究の現状

- 2022年11月にChatGPTが登場して以来、arXivプレプリントリポジトリへの月間投稿数は50%以上増加し、毎月却下される論文数は5倍の2,400件を超えている。
- 査読にAIを活用するなど、偽造論文の排除。
- 例えば、arXivは、初めて投稿する研究者に対して適格性チェックを追加し、過去に査読機関に受理されていないコンピュータサイエンスのレビュー論文を禁止した。

<https://doi.org/10.1038/d41586-025-03967-9>

REJECTION RATES CLIMB

The rejection rate of arXiv papers in computer science, relative to those accepted, doubled between January 2025 and 2026.



ICMJEガイドライン 2024年1月改訂版 2026年1月改訂版が発行されました

- **AI利用の開示:**
 - 論文投稿時に、Large Language Models (LLMs)、チャットボット、画像生成ツールといったAI技術を論文作成に利用したかどうかを開示する必要あり。
- **AI利用方法の説明**
 - AI技術を利用した場合、カバーレターと論文内の適切なセクションで、具体的な利用方法を説明する必要あり。
 - 例：ライティング支援ツールとしてAIを利用した場合は謝辞に記述する。
 - データ収集、分析、図表作成にAIを利用した場合は、方法のセクションに記述する。

B. 査読者によるAIの利用

査読者は、AIの利用に関する学術誌の方針を遵守するか、査読を補助する目的でAI技術を使用する前に学術誌の許可を得なければならない。第II.C.2.c節に記載されているとおり、査読者は原稿の機密性を保持する義務があり、機密性が保証されないソフトウェアやその他のAI技術に原稿をアップロードすることは、学術誌が明示的に許可していない限り禁止される。

査読にAIを使用した査読者は、その使用を学術誌に開示しなければならず、AIが誤り、不完全、または偏った出力を生成する可能性があることを踏まえ、内容の適切性および妥当性を確認しなければならない。

- **査読者によるAI利用**
 - 査読者は、査読を円滑に進めるためにAI技術を利用する前に、事前に雑誌の許可を得る必要あり。
 - 査読者は、AIが誤った、不完全な、または偏った、もっともらしいアウトプットを生成する可能性があることを認識しておく必要あり。

2026年1月改訂版が発出されました

V. USE OF AI IN PUBLISHINGとして記載あり

<https://www.icmje.org/icmje-recommendations.pdf>

https://www.icmje.org/news-and-editorials/updated_recommendations_jan2024.html

論文執筆時の AI 利用の 9 分類（1）

国際STM出版社協会は、著者によるAI利用の申告を標準化するため、以下の9つの分類を推奨しています。自分の使い方がどれに該当するか確認しましょう。

#	活動内容 (Activity Description)	具体例 (Examples)
1	言語の明確化のための推敲・修正・編集・フォーマット調整	スペルチェッカー、文法チェッカー等の利用
2	出版を目的とした原稿テキストの翻訳	Google翻訳やChatGPT等による翻訳支援
3	原稿で報告されるデータの推敲・フォーマット調整	研究データの表現（言語レベル）やフォーマットの明確化
4	純粋な説明目的の画像・図・その他図版の生成	人間のアーティストが描くような挿絵の作成

https://s3.eu-west-2.amazonaws.com/stm.offloadmedia/wp-content/uploads/2025/04/23020709/STM_AI_Classification_Recs_19_Sept2025-1.pdfをもとに一部改変

論文執筆時の AI 利用の 9 分類（2）

#	活動内容 (Activity Description)	具体例 (Examples)
5	原稿コンテンツの執筆またはドラフト作成	プロンプトからのテキスト生成、テキストの大幅な書き換え
6	研究データまたは結果の可視化の生成・推敲	研究データセットのグラフ、表、その他の可視化を生成
7	参考文献収集の支援	研究に関連しそうな論文の検索・特定
8	提出原稿で報告されるコードの推敲・フォーマット調整	コードの可読性や明確性の向上（機能は変更しない）
9	AI生成コンテンツを独自の研究データ/結果であるかのように提示	【最重要・不許可】 AIが生成したデータ、テキスト、画像を独自の研究成果として発表すること

https://s3.eu-west-2.amazonaws.com/stm.offloadmedia/wp-content/uploads/2025/04/23020709/STM_AI_Classification_Recs_19_Sept2025-1.pdfをもとに一部改変

サイエンス誌の ガイドライン

- 研究実施
 - 原稿作成
 - 査読
 - 査読回答
 - 原稿改訂
 - 編集部利用
- 論文関係が
ほとんど

<https://www.asca-co.com/science/science-pick-up-%e3%80%8escience%e8%aa%8c%e3%81%ab%e3%81%8a%e3%81%91%e3%82%8bai%e4%bd%bf%e7%94%a8%e3%82%ac%e3%82%a4%e3%83%89%e3%83%a9%e3%82%a4%e3%83%b3%e3%80%8f%e5%85%a8%e6%96%87%e7%bf%bb/>

学術情報流通のワークフローにおける

Science 誌における AI 使用ガイドライン（全文翻訳）

使用カテゴリ	使用サブカテゴリ	許可されるか？	詳細
研究の実施	コードの作成	条件付きで可	方法（Methods）セクションで、モデル名とバージョン番号を明記する必要あり
	データの生成または解析	条件付きで可	方法（Methods）セクションで、モデル名とバージョン番号を明記する必要あり
	文献検索	可	申告不要
原稿の作成	言語の明確化のための修正、訂正、編集、フォーマット調整	可	申告不要
	原稿内容の執筆または草稿作成	条件付きで可	謝辞（Acknowledgments）セクションで、モデル名とバージョン番号を明記する必要あり
	原稿テキストの翻訳	条件付きで可	謝辞（Acknowledgments）セクションで、モデル名とバージョン番号を明記する必要あり
	原稿内で報告されるデータのフォーマット調整	可	申告不要
	説明目的のためだけに、画像、図、その他の図を生成、修正、編集、フォーマット調整すること	不可	原則不可。特別な事情がある場合は編集者に要相談
	研究データまたは結果の可視化の編集またはフォーマット調整	条件付きで可	謝辞（Acknowledgments）セクションで、モデル名とバージョン番号を明記する必要あり
	コードの修正やフォーマット調整	可	申告不要
	参考文献収集の補助	可	申告不要
	AI 生成コンテンツをあたかも非 AI 由来のオリジナル研究であるかのよう提示すること	不可	不可
査読	原稿の全部または一部を LLM やその他 AI ツールに入力し、査読を生成または補強すること	不可	不可
	査読コメントの言語的な修正や改訂	条件付きで可	システムが入力内容を保存したりモデル学習に使用しない場合のみ可。ツール名と使用方法を査読内で明記する必要あり
査読への回答	査読コメントの全部または一部を LLM やその他 AI ツールに入力し、回答を生成または補強すること	不可	不可
	回答文の言語的な修正や改訂	条件付きで可	システムが入力内容を保存したりモデル学習に使用しない場合のみ可。ツール名と使用方法を回答内で明記する必要あり
原稿の改訂	原稿の全部または一部を LLM やその他 AI ツールに入力すること	不可	不可
編集部での利用	機密性を保持できる方法で AI ツールを使用すること（例：非オープン LLM）	条件付きで可	ツール名と使用方法をジャーナルのウェブサイトで公表する必要あり

あなたのお考えは？ **Nature**による調査

nature



イラスト: アカブルコスタジオ

***Nature*のAI研究テストを受けて、あなたの倫理観を比較してみましょう**

査読や研究論文の執筆にAIを使用することについて、どのような見解をお持ちですか？

ダイアナ・クオン、リチャード・ヴァン・ノルデン著

2025年5月14日

<https://www.nature.com/immersive/d41586-025-01512-2/index.html>

<https://www.nature.com/articles/d41586-025-01463-8>

質問1

次のシナリオを考えてみましょう。

ブロッグス博士は、ChatGPT（または他の生成AIツール）に、論文に盛り込みたいアウトラインポイントに基づいて研究論文の作成を依頼します。AIの回答を最初の草稿として使用します。

彼らはこの草稿を編集します。

AIを使用したことは明らかにされていない。

この行動についてどう思いますか？

- ☐ それは適切だ
- ☒ ブロッグス博士がAIを使ったことを明らかにした場合にのみ適切である
- ☐ ブロッグス博士が使用したプロンプトの詳細を明らかにするのは適切である。
- ☐ いかなる状況でも適切ではない

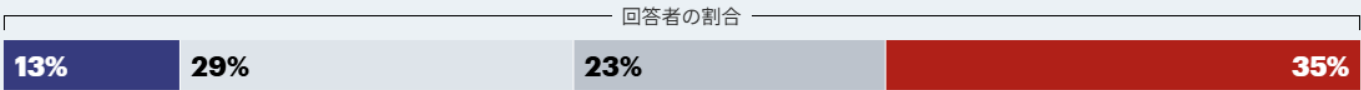
Natureの調査回答者の**29%**が同じ答えを選んだ。

Natureの調査では、回答者の**65%**が研究論文の初稿作成に**AI**を利用することは許容できると回答しました。許容できると回答した人のほとんどは、**AI**の利用状況を開示したいと考えていましたが、その形式については意見が分かれました。現在、多くの出版社はこのような形での**AI**の利用を認めていますが、何らかの開示を求めています。

追加の質問では、実際にこれを行ったと答えた回答者はわずか**8%**でした。

この行動についてどう思いますか？

- 適切な
- AIの使用が開示されている場合にのみ適切
- プロンプトが開示されている場合にのみ適切
- いかなる状況においても不適切



質問2

次のシナリオを考えてみましょう。

ブロッグス博士は研究論文の初稿を書きます。

次に、ChatGPT（または別の生成 AI ツール）を使用して、記事の明瞭さ、流れ、トーンなどに関する提案を求めるなどして、記事の編集を支援します。

AIを使用したことは明らかにされていない。

この行動についてどう思いますか？

- ☐ それは適切だ
- ☒ ブロッグス博士がAIを使ったことを明らかにした場合にのみ適切である
- ☐ ブロッグス博士が使用したプロンプトの詳細を明らかにするのは適切である。
- ☐ いかなる状況でも適切ではない

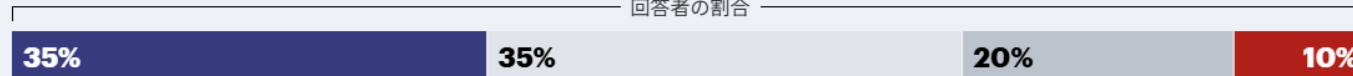
Natureの調査回答者の**35%**が同じ答えを選んだ。

AIを使った記事編集は、回答者の間で非常に好評でした。約**90%**が「問題ないかもしれない」と回答しましたが、開示が必要かどうかについては意見が分かれています。現在では多くの出版社が、AIの使用を開示しなくても許容できると回答しています。

追加の質問では、回答者の**28%**が論文編集に生成AIを利用したことがあると回答しました。博士課程の学生では**42%**でした。そして、半数以上が、そのことを公表していませんでした。

この行動についてどう思いますか？

- 適切な
- AIの使用が開示されている場合にのみ適切
- プロンプトが開示されている場合にのみ適切
- いかなる状況においても不適切



質問3

次のシナリオを考えてみましょう。

ブロッグス博士は、引用したい論文をAIツールにアップロードし、短い要約を作成するよう依頼します。そして、AIが生成した要約を適切な引用とともに研究論文に使用します。

彼らは AI を使用したことを明らかにしていません。

この行動についてどう思いますか？

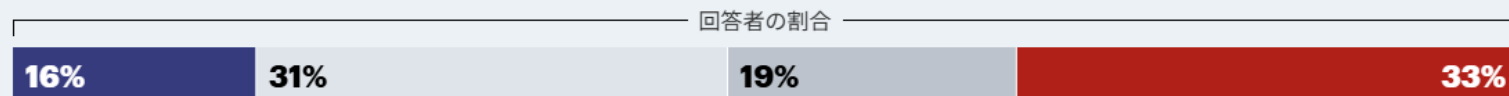
- ☐ それは適切だ
- ☒ ブロッグス博士がAIを使ったことを明らかにした場合にのみ適切である
- ☐ ブロッグス博士が使用したプロンプトの詳細を明らかにするのは適切である。
- ☐ いかなる状況でも適切ではない

***Nature*の調査回答者の31%が同じ答えを選んだ。**

回答者の約65%がこれは適切だと考えていましたが、どのような開示が必要かについては意見が分かれしました。要約作成にAIを利用したことがあると答えたのはわずか8%で、その利用を開示しない傾向がありました。英語が母国語ではない国に居住する研究者は、AIを利用している可能性が高かったようです。これは、*Nature*の調査における他の質問でも同様でした。

この行動についてどう思いますか？

- 適切な
- AIの使用が開示されている場合にのみ適切
- プロンプトが開示されている場合にのみ適切
- いかなる状況においても不適切



次のシナリオを考えてみましょう。

ブロッグス博士は母国語で研究論文を書いています。

次に、AI ツールを使用して記事全体を別の言語に翻訳し、その言語のジャーナルに投稿できるようにします。

彼らは AI を使用したことを明らかにしていません。

この行動についてどう思いますか？

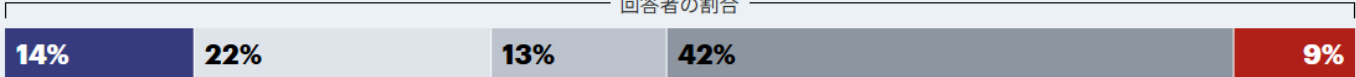
- ☐ それは適切だ
- ☒ ブロッグス博士がAIを使ったことを明らかにした場合にのみ適切である
- ☐ ネイティブスピーカーが翻訳をチェックする場合にのみ適切です
- ☐ ネイティブスピーカーが翻訳をチェックし、ブロッグス博士がAIを使用したことを明らかにした場合にのみ適切である。
- ☐ いかなる状況でも適切ではない

Natureの調査回答者の**22%**が同じ答えを選んだ。

AIを用いて論文を翻訳することは、概ね倫理的であると感じられており、研究者の**90%**が賛成しました。しかし、**50%以上**が、その言語に堪能な人が翻訳をチェックすべきだと考えています。実際にこの目的で**AI**を利用したことがあると答えた人はわずか**8%**でした（**AI**翻訳ツールは一般的に他者の研究を理解するために利用されるためかもしれません）。しかし、英語が母国語ではない国に拠点を置く回答者では、その割合がさらに高くなりました。

この行動についてどう思いますか？

- ☒ 適切な ☐ AIの使用が開示されている場合にのみ適切
- ☐ ネイティブスピーカーが翻訳をチェックする場合にのみ適切です
- ☐ ネイティブスピーカーによる翻訳チェックとAIの使用が開示されている場合にのみ適切です
- ☐ いかなる状況においても不適切



次のシナリオを考えてみましょう。

ブログス博士は研究論文の査読に招待されています。

彼らは AI ツールに原稿の初期査読を依頼します。

次に、これを独自の査読レポートの基礎として使用します。

彼らは AI を使用したことを明らかにしていません。

この行動についてどう思いますか？

- ☐ それは適切だ
- ☐ ブログス博士がAIを使ったことを明らかにした場合にのみ適切である
- ☐ ブログス博士が使用したプロンプトの詳細を明らかにするのは適切である。
- ☐ ブログス博士が自分のマシンにローカルにインストールされたAIツールを使用し、情報がオンラインで公開される場合のみ適切です。
- ☒ ブログス博士がローカルにインストールされたAIツールを使用し、AIを使用したことを明らかにした場合にのみ適切である。
- ☐ 機密情報をオンラインAIツールに漏らすことはプライバシー上の懸念があるため適切ではない
- ☐ いかなる状況でも適切ではない

Natureの調査回答者の**15%**が同じ答えを選んだ。

Natureの調査では、初期の査読報告書の作成に**AI**を使用することは好ましくないと回答し、回答者の**60%**以上が不適切だと回答しました（そのうち約**4分の1**はプライバシーへの懸念を挙げています）。査読における**AI**の使用を許可するかどうかについては、出版社の意見が分かれています。**AI**を禁止している出版社もあれば、情報開示を条件に限定的な使用を許可する出版社もあります。また、機密情報の漏洩を懸念し、チャットボットウェブサイトへの資料のアップロードを禁止している出版社もあります。**Nature**の調査では、*研究者の約4%*が**AI**をこの目的で使用したことがあると回答し、大多数は使用情報を開示していませんでした。

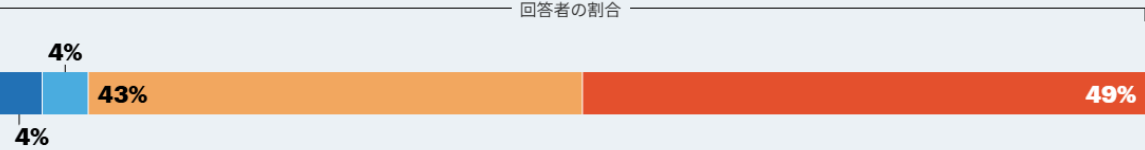
この行動についてどう思いますか？

- ☒ 適切な
- ☐ AIの使用が開示されている場合にのみ適切*
- ☐ ローカルにインストールされたAIが使用される場合にのみ適切です
- ☐ プライバシー上の懸念があるため不適切
- ☐ いかなる状況においても不適切



これをやったことがありますか？

- ☒ はい、AIの使用を開示せずにこれを行いました
- ☐ はい、私はこれをやりました、そしてAIの使用を開示しました
- ☐ いいえ、まだやったことはありませんが、やってみたいと思います
- ☐ いいえ、私はこれをやったことはありませんし、検討するつもりもありません



質問6

次のシナリオを考えてみましょう。

ブログス博士は、統計手法が正しく使用されているか、著者の特定の主張が正しいかなど、査読対象の論文に関する具体的な質問を AI ツールに投げかけます。

AI ツールの回答を確認した後、これらの応答をピアレビュー レポートに含めます。

彼らは AI を使用したことを明らかにしていません。

この行動についてどう思いますか？

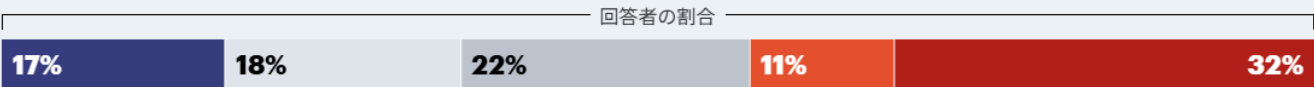
- ☐ それは適切だ
- ☐ ブログス博士がAIを使ったことを明らかにした場合にのみ適切である
- ☐ ブログス博士が自分のマシンにローカルにインストールされたAIツールを使用し、情報がオンラインで共有されないようにする場合にのみ適切です。
- ☒ 機密情報をオンラインAIツールに漏らすことはプライバシー上の懸念があるため適切ではない
- ☐ いかなる状況でも適切ではない

*Nature*の調査回答者の11%が同じ答えを選んだ。

回答者の半数以上が、このようなAIの利用は適切である可能性があると感じていましたが、実際にAIを利用したことがあると答えたのはわずか8%でした。回答者のほとんどは、AIの利用について公表していませんでした。多くの回答者は、オンラインで情報が漏洩しない、ローカルにホストされた大規模言語モデルを用いるのであれば、このような利用は許容できると指摘しました。

この行動についてどう思いますか？

- 適切な ■ AIの使用が開示されている場合にのみ適切
- ローカルにインストールされたAIが使用される場合にのみ適切です
- プライバシー上の懸念があるため不適切 ■ いかなる状況においても不適切



ArXiv says submissions must be in English: are AI translators up for the job?

The preprint repository's requirement could boost the use of large language models to translate scientific texts.

By [Nicola Jones](#)



Artificial-intelligence translators could help researchers to meet the arXiv preprint server's new mandate that all manuscripts be submitted in English. Credit: Sharaf Maksumov/Alamy

Every month, more than 20,000 scientific manuscripts by authors from around the world are

- 生成 A I を使った英語翻訳で良いかどうか。
- 英語という共通言語の取り扱い。

<https://doi.org/10.1038/d41586-026-00229-0>

A | ツール類・編集用ツール類（英語）

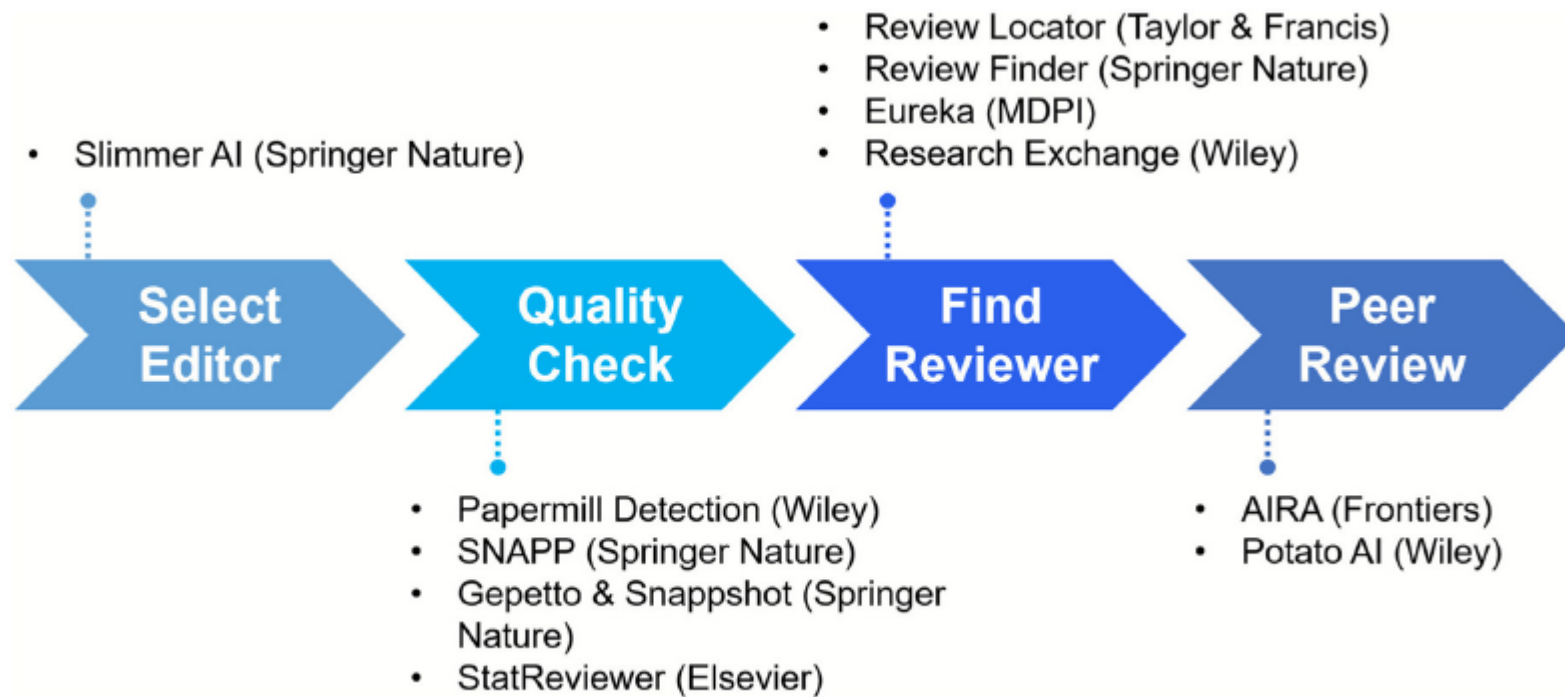


FIGURE 1 | AI tools used in the peer review process.

A Cross-Disciplinary Analysis of AI Policies in Academic Peer Review

学術情報流通のワークフローにおける生成AI活用の展望： AI Zhongshi Wang | Mengyue Gong 

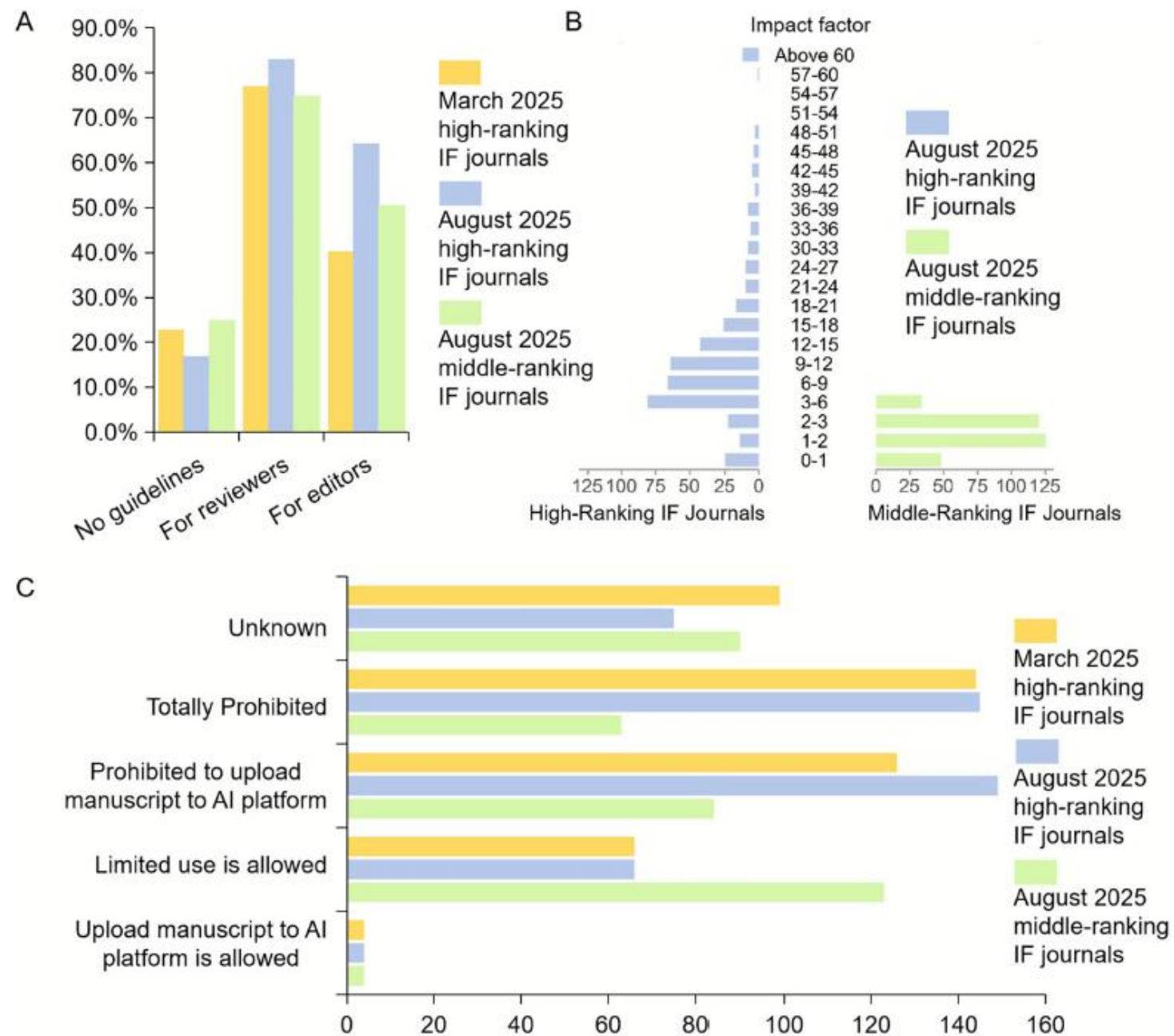


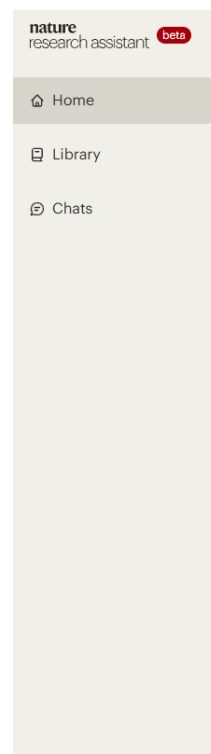
FIGURE 3 | AI policies for peer review and impact factor of high- and middle-IF journals in March and August 2025. (A) AI policies for peer review; (B) impact factors; (C) attitudes of policies.

Peer Review Week 2025での議論とACSE

- <https://peerreviewweek.net/prw2025.php>
- 2025年9月15日～19日、オンライン開催
- 「Rethinking Peer Review in the AI Era」がテーマ
- インタビュー記事
 - <https://www.editage.jp/blog/an-interview-with-maryam-sayab-ai-and-the-future-of-peer-review/>
- **Asian Council of Science Editors**
 - <https://theacse.com/>
 - Peer Review Weekでも多数の情報発信
 - 2月16日にELIZAシステムの紹介
 - 編集、情報確認、査読アシスタント機能

出版社も AI ツールを提供している

- 【Harnessing Generative AI for Actionable Insights and Societal Impact】 柿田 佳子氏 (Elsevier)
- Nature Research Assistant
 - <https://researchassistant.nature.com/>
 - 未発表原稿をアップロード可能
 - 修正点コメントが付加される
 - 関連文献検索
 - 投稿先学術誌探し



Helping you to save time reading, understanding and writing research papers

Reading Assistant

 Quickly understand any paper through AI-generated summaries	 Chat with paper(s) using our prompts or your own queries
 Walk through a paper's figures in detail with AI-powered audio descriptions	 Discover related research to support your literature reviews
 Try a demo paper Use "Dopamine-mediated formation of a memory module in the nucleus accumbens for goal-directed navigation." as a demo paper. Try now →	

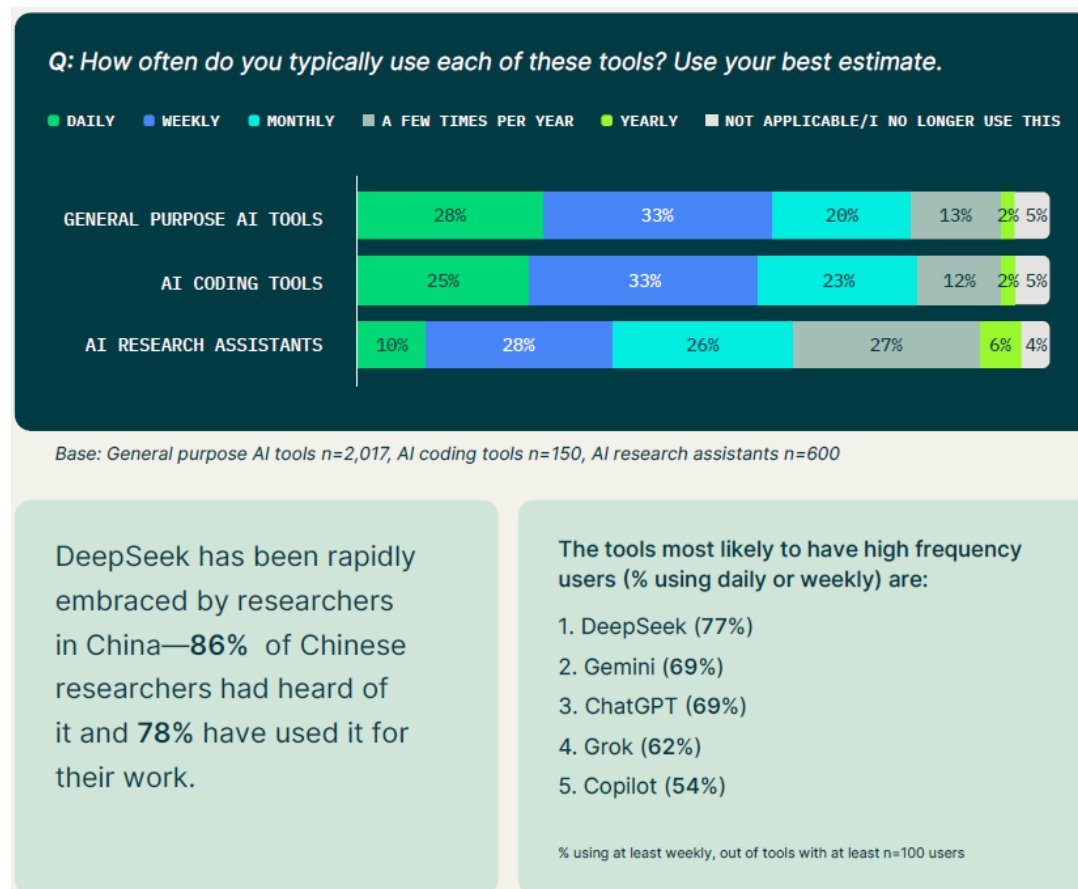
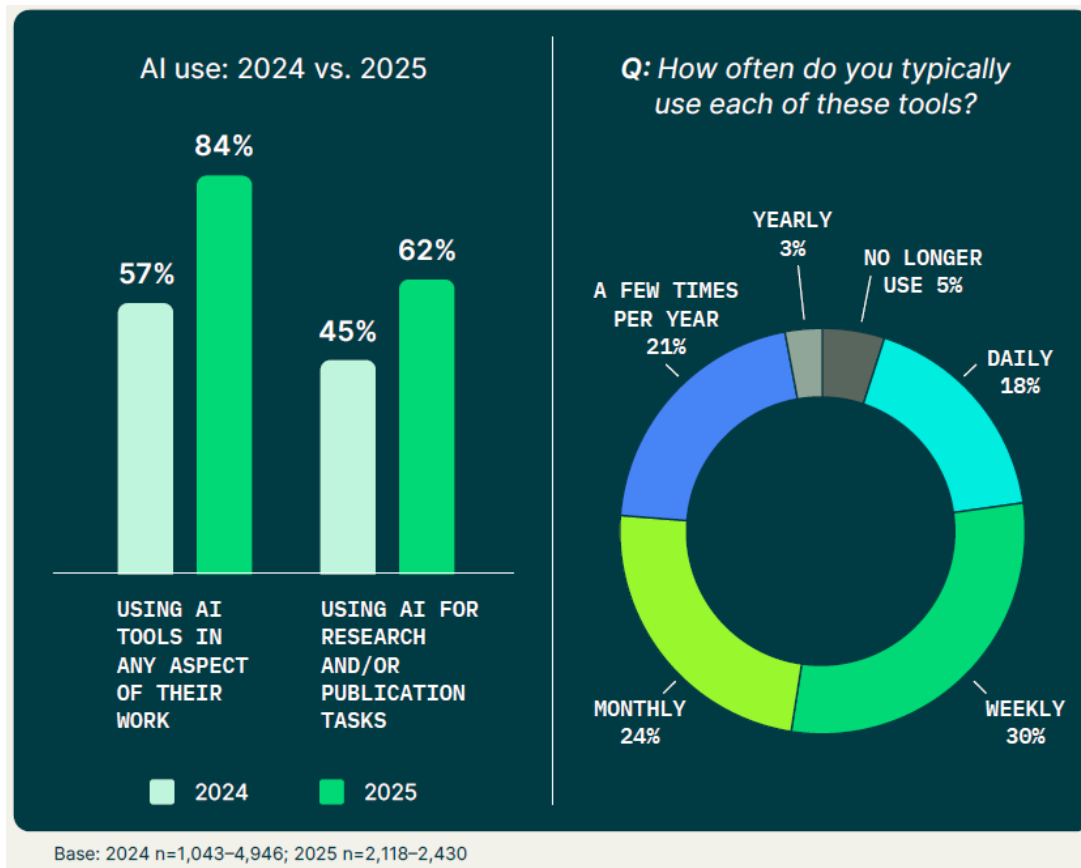
Manuscript Adviser

 Improve your manuscript with tailored advice and suggestions	 Find further papers worth considering for your references
--	---

Wiley社のScholar Gateway、AIレポート

- <https://www.youtube.com/watch?v=p7DgzsgoFAs>
 - 米国の図書館司書のかたから見た AI
- <https://www.wiley.com/en-gb/publish/ai-insights/ai-research-discovery-scholar-gateway-insights/>
- <https://www.wiley.com/en-jp/about-us/ai-resources/ai-study/ai-resources/>
- Scholar Gateway
 - <https://www.wiley.com/en-jp/solutions-partnerships/ai-solutions/>

WILEY社の研究者調査



<https://www.wiley.com/about-us/ai-resources/ai-study/register-2025-report/>
学術情報流通のワークフローにおける生成AI活用の展望：AIによる原稿作成と査読に係る海外の動向と国内の対応例

生成AIを査読に使う

- openRxivは、人工知能（AI）を活用した査読ツールをプレプリントサイトに統合すると発表。

- <https://arxiv.org/abs/2501.10326>
Large language models for automated scholarly paper review: A survey

Zhenzhen Zhuang^a, Jiandong Chen^a, Hongfeng Xu^b, Yuwen Jiang^c, Jialiang Lin^{a,*}

^aSchool of Computer Science and Engineering, Guangzhou Institute of Science and Technology, Guangzhou, China

COMPARING AI AND HUMAN PEER REVIEW

A survey asked 300 researchers to compare human and LLM* reviews of their own papers. Respondents found LLM feedback slightly less helpful, on average, than human feedback, but LLMs performed better than some human reviewers.

LLM reviews were:

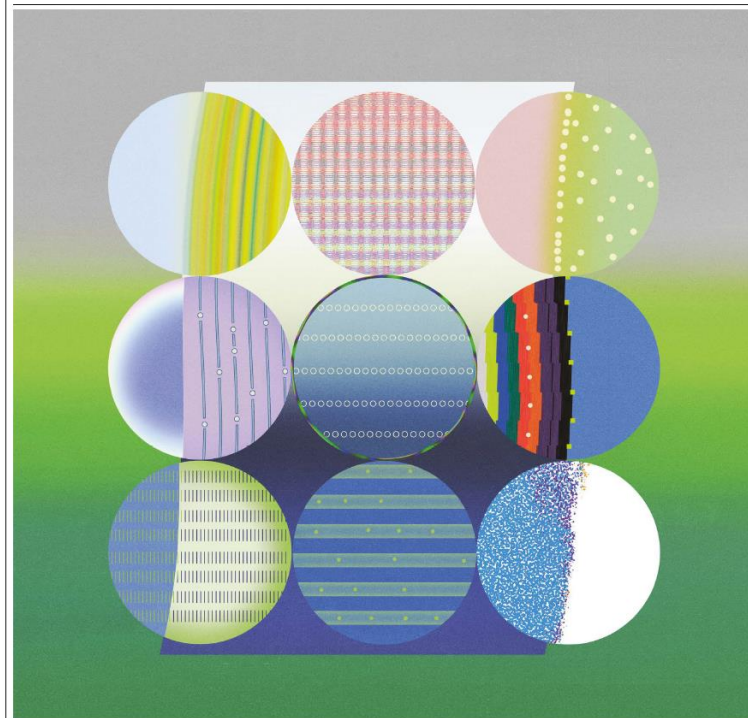


1.6
More helpful than many human ones, but less helpful than some

*Large language model; in this case, GPT-4, from the firm OpenAI. Percentages do not add to 100% owing to rounding.

<https://doi.org/10.1038/d41586-025-00894-7>

Feature



WILL AI TAKE OVER PEER REVIEW?

Artificial intelligence software is increasingly involved in reviewing papers – provoking interest and unease. By Miryam Naddaf

すでに50%以上が論文査読にAIを使用

• 出版社Frontiersによる調査結果

Q: Which aspects of peer reviewing do you use AI tools for?

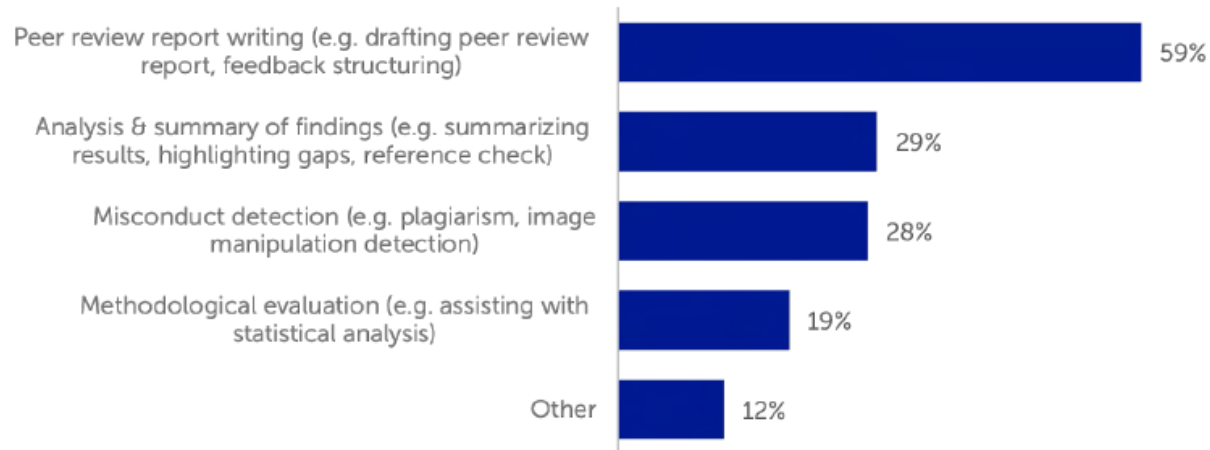


Figure 3: Patterns of AI usage by reviewers. We asked: Have you used AI to improve any of the following aspects in your role as a peer reviewer? (n=477). Respondents could select more than one response.



実際の学術論文を査読させてみた実験

- <https://www.youtube.com/watch?v=PnywsFUF89s>
- <https://www.nature.com/articles/s41467-025-61525-3>
- 4つの異なる設定
- 追加の文脈を与えずに論文の査読を依頼
- 査読報告書の構造を模倣し、洗練された言語を使用することはできた
- 建設的なフィードバックを生成できず、事実誤認
- 高度なプロンプトを与えてもAIの性能は向上せず

<https://doi.org/10.1038/d41586-025-04066-5>

文献探索のためのAIツールの開発論文

NEWS | 04 February 2026

Open-source AI tool beats giant LLMs in literature reviews – and gets citations right

Researchers can deploy the cheap and transparent model on their own computer system.

By [Elizabeth Gibney](#)



活用の展!

Article

Synthesizing scientific literature with retrieval-augmented language models

<https://doi.org/10.1038/s41586-025-10072-4>

Received: 16 February 2025

Accepted: 17 December 2025

Published online: 04 February 2026

Open access

Check for updates

Akari Asai^{1,2}, Jacqueline He^{1,7}, Rulin Shao^{1,7}, Weijia Shi¹, Amanpreet Singh², Joseph Chee Chang², Kyle Lo², Luca Soldaini², Sergey Feldman², Mike D'Arcy², David Wadden², Matt Latzke², Jenna Sparks², Jena D. Hwang², Varsha Kishore^{1,2}, Minyang Tian², Pan Ji⁴, Shengyan Liu², Hao Tong³, Bohao Wu³, Yanyu Xiong⁵, Luke Zettlemoyer¹, Graham Neubig⁶, Daniel S. Weld^{1,2}, Doug Downey², Wen-tau Yih¹, Pang Wei Koh^{1,2} & Hannaneh Hajishirzi^{1,2}✉

Scientific progress depends on the ability of researchers to synthesize the growing body of literature. Can large language models (LLMs) assist scientists in this task? Here we introduce OpenScholar, a specialized retrieval-augmented language model (LM)¹ that answers scientific queries by identifying relevant passages from 45 million open-access papers and synthesizing citation-backed responses. To evaluate OpenScholar, we develop ScholarQABench, the first large-scale multi-domain benchmark for literature search, comprising 2,967 expert-written queries and 208 long-form answers across computer science, physics, neuroscience and biomedicine. Despite being a smaller open model, OpenScholar-8B outperforms GPT-4o by 6.1% and PaperQA2 by 5.5% in correctness on a challenging multi-paper synthesis task from the new ScholarQABench. Although GPT-4o hallucinates citations 78–90% of the time, OpenScholar achieves citation accuracy on par with human experts. OpenScholar's data store, retriever and self-feedback inference loop improve off-the-shelf LMs: for instance, OpenScholar-GPT-4o improves the correctness of GPT-4o by 12%. In human evaluations, experts preferred OpenScholar-8B and OpenScholar-GPT-4o responses over expert-written ones 51% and 70% of the time, respectively, compared with 32% for GPT-4o. We open-source all artefacts, including our code, models, data store, datasets and a public demo.

ローカルAI環境

- 強力なAIを机の上で
- データ漏洩なし
- ファインチューニング可能
- RAG可能

NVIDIA ワークステーション 製品 ツールとリソース

NVIDIA DGX Spark

デスク上の Grace Blackwell AI スーパーコンピューター。

購入方法
NVIDIA Marketplace で最適な購入オプションをお探しください。

[購入する](#) [サポート](#)

[データシート](#) | [仕様](#) | [フォーラム](#)

旧称: Project DIGITS

概要 特徴 ワークロード ソフトウェア パートナー [購入する](#)

概要

大きなきっかけを起こす

NVIDIA GB10 Grace Blackwell Superchipを搭載した NVIDIA DGX Spark™ は、電力効率に優れたコンパクトなフォーム ファクターで、petaFLOP¹ の AI パフォーマンスを実現します。NVIDIA AI ソフトウェア スタックと 128 GB のメモリがプリインストールされているため、開発者は最大 2,000 億パラメータをローカルで利用でき、DeepSeek、Meta、NVIDIA、Google、Qwen などが提供する最新世代のリーズニング AI モデルのプロトタイプ作成、ファインチューニング、推論が可能です。

1 スパース演算機能を用いた FP4 TOPS 理論値。

NVIDIA DGX Spark、世界の AI 開発者向けに登場

NVIDIA とパートナーは、世界最小の AI スーパーコンピューターである DGX Spark を出荷し、NVIDIA の AI スタックをコンパクトなデスクトップフォーム ファクターで実現しています。

[プレスリリースを読む](#)

ボックスが登場します。DGX Spark がグローバル展開を開始し、Petaflop AI をデスクトップ環境に実現します。

<https://www.nvidia.com/ja-jp/products/workstations/dgx-spark/>

学術誌独立宣言

- https://oad.simmons.edu/oadwiki/Journal_declarations_of_independence
- 学術誌の編集者らが、抗議して辞任、新しい学術誌を立ち上げる。
- 2023年にNeuroImage誌（エルゼビア社）の編集者全員が、同誌の高額なAPCに抗議し、新しいOAジャーナル（Imaging Neuroscience）（MIT Press社）を立ち上げた。
- 2025年時点でNeuroImage誌のIF低下なし、Imaging Neuroscience誌も順調に論文を発行中。
- https://scholarlykitchen.sspnet.org/2026/02/11/so-is-the-essence-of-a-journal-portable-checking-in-on-_neuroimage_-and-_imaging-neuroscience_/

2025～2026年の変化のまとめ

- 生成AI利用の検出・禁止から、利用方法の明示・開示へと全体の論調が変化した。
- さまざまな学術出版に利用できるAIツール類が登場した。
- 学術研究者からの生成AI利用についての調査論文。
- 学会・学術出版社側もAIシステムの提供や生成AI利用についてのガイドライン発出。
- これらの変化を受けて、課題点も変化してきている。
 - 生成AI利用を開示することを推進するための動き
 - 生成AI利用を開示することでデメリットが無いことを示す。

まとめと今後の展望

- 科学研究論文における査読（Peer review）の価値は変わらない。
- 生成 A I の性能向上や専門的 A I の開発による進化がある。
- 人による査読をサポートする、人による査読に追加する形で生成 A I による査読が導入される可能性がある。
- 生成 A I の査読への導入は増え続ける科学技術論文査読需要に対応するための1つの対策となり得る。
- 未公開論文情報の保護、A I 利用の透明性の担保、査読用 A I システムの公平性の確保が必要である。

ご清聴ありがとうございました

- ご質問は、以下のメールアドレスへご連絡ください。
- a.yamamoto.dm@juntendo.ac.jp
- 山本 憲（やまもとあきら）
- 順天堂大学健康データサイエンス学部